

年 表

明治元年（一八六八）

- 三月 太政官西洋醫術採用の布告を出す
- 四月 太政官は曩に錦小路頼言の建議を採用し烏丸一條上ルに病院を開設す 明石博高及木村得正之を主管す

明治二年（一八六九）

- 一月 舊有信堂を種痘所と改め府の所轄とす
- 三月 大坂にボードインを教師として浪華假病院開設せらる
- 五月 大坂にハラタマを教師として舍密局開設せらる 明石博高同人につき化學を傳習す

明治三年（一八七〇）

- 一月 島原遊廓に蝨毒療養所を設置す 三月廢止す
- 五月 種痘所を大學校所轄とし醫學校治驗並種痘所と改む 七月再び府に返還せらる

- 七月 杉浦治郎右衛門等祇園神幸道に療病館を設置し藝娼妓の疾病を治療し檢査を實施す

閏十月 明石博高京都府に出仕す

十一月 リュードルフ・レーマンを歐學會教師として雇入る

十二月 河原町二條上ル勸業場内に舍密局を開設し藥物の檢明等を行ふ

福井藩醫前田松園を府出仕とし種痘所に勤務せしむ

明治四年（一八七一）

一月 種痘所を種痘館と改唱、醫員總長に前田松園、同補助に江馬權之介を命ず

二月 明石博高病院及醫學校の建設を申請するも却下せらる

三月 洋學所を河原町二條下ル勸業場内へ移し歐學會と定稱す
リュードルフ・レーマンを以て獨逸學校を開く

四月 チャールス・ポールドウインを以て河原町二條上ル高田派別院内に英學校を開く

十月 療病院建營の告諭を發す

花街より冥加錢を取立て、療病院運用資金とすることを達す

レオン・ジュリーを以て佛學校を木屋町三條下ルに開設す

舍密局より解剖所取開方を申議す

十一月 勸業掛明石博高に療病院掛兼勤を命ず

勸業人集議所を河原町二條上ル高田派別院に置き資金勸募を始む 十二月寺町大雲院内南陽軒に移す

十二月 前田松閣を大坂に差遣しレーマン・ハルトマン會社と醫師雇傭につき折衝せしむ

療病院掛より市中醫師の流派取調あり

明治五年（一八七二）

一月 醫務取締をおく

二月 粟田山中に解剖所竣工す

八月 教師ヨンケル・フォン・ランゲック來朝す

九月 七日ヨンケル入浴、各區醫業取締・種痘館醫員をして分擔當直せしむ 十五日木屋町二條下ルに於て診察を開始

す 二十一日診察料決定す

ハワイ國總領事ウエンリート旅に病む ヨンケル伊勢庄野驛に之を往診す

十月 八日より木屋町に於て醫學生の教育を行う

市中醫師より療病院維持費毎年一圓を取立てることを布達す

二十四日新宮涼閣・江馬權之介・眞島利民を假療病院當直醫藥局掛兼勤に、檜林建吉・前田松閣・小石中藏を當直醫に、横井俊介・田中元造・松岡周吉を藥局出仕に、安藤精軒を療病院掛に命ず

二十五日粟田口へ移轉に付二十一日より木屋町に於る診察を中止す

療病院標旗を定む

市中醫師の流派再び取調あり

十一月 朔日 愛宕郡第二組粟田口村青蓮院（舊粟田宮跡）に假

療病院を設置し本日開院式を行う 市民の縦覽を許す

種痘館を療病院所轄とす

療病院治療條則・入學生徒規則を制定す

職員の手給を定む 藥價を假に定む

産科學特別聽講制度を始む

教師課業表を定む

「療病院新聞」を刊行す

十二月 療病院開設の件を正院に届出す

明治六年（一八七三）

一月 府は市政庶務課をして本院の事務を兼掌せしむ

無籍の刑屍を解剖して醫學の研究に資せんことを上申す

二月 刑屍四體を栗田口解剖場に解屍す 維新後京都に於ける

最初の解剖とす 明石博高之を主宰す

解剖所を療病院所轄とす

正則生徒にリユードルフ・レーマンにつき理學化學二科

を學ばしむ 七月之を中止す

永松東海を醫務取締に任ず 八月東京大學に去る

三月 當直醫江馬權之介辭職し専ら種痘館に勤務す

療病院非常立退所を定む

四月 「療病院日講録」を刊行す

病屍解剖につき正院に伺書を出す 六月親屬承諾の上に

於て許さる

九月 貧病室を設置す

府はヨンケルに命じ腦脊髓膜赦衝預防法を編纂せしめ府

下に發布す

小學校に於て普通學科を終えたものを收容して豫料をお

く 教師之に關與せず

李家隆彦を丹波に派遣し地方醫師に講演せしむ

教師課業表を改正す

當直醫旅費額を定む

十月 假療病院内に假解剖所を設置す 舊栗田山中の解剖所を

移轉したものと思はる 又岩氏授産所受業人の解屍を許

さる

教師及當直醫の往診料を定む

「療病院新聞」を廢刊す

十一月 佛學校教師レオン・ジュリーに就き生徒をしてラテン語

を學ばしむ

去る七月布達第百號に應じ文部省へ療病院の事由體裁等

を答申す

當時の職員は庶務取締渡忠純・廣瀬元周・李家隆彦・六

角博通、同取調吉岡美種、出納掛酒井良顯・長谷川紀

一、通辯山田文友、當直醫安藤精軒・眞島利民・島成家
・新宮涼介、藥局掛新宮涼湖・木下烈・田中元造、舎長
原口隆造

十二月 柳下士興を豫科教授掛、半井澄を庶務取締兼通辯、村治
重厚を當直醫兼記聞掛とす

明治七年（一八七四）

一月 腦脊髓膜炎女屍を解屍す 療病院に於る最初の病理解剖
とす

醫師の開廢業・轉籍・死亡を療病院に届けしむ
療病院職員を入札により定む

二月 新に管學事をおき半井澄を之に任ず 又職制を整備し通
辯・助教・當直醫・記聞掛・主器・典籍掛・舎長をおく
貧病施療、診察料随意、藝娼妓終身施療の事等を定む

三月 職員旅費日當額を定む

療病院當直醫を毎日療病館に出張診察せしむ

四月 教師ヨシケルをしてチフス・タイホイド豫防治療につき

府下醫師に講義せしむ

天然痘種痘二説を頒布す

療病院治療條則・療病院生徒條則・舎則を改正す
教師課業表を改正す

療病院勸諭方四十五人に褒賞を行う

五月 死亡届を療病院を通じて提出せしむることとす

「療病院日講録」を廢刊す

六月 自今流行病を療病院に届出しむ

授産所・懲役場・監獄等の患者を本院に於て治療す

療病院設置の際出金者に賞典を行う

職員旅費額を改定す

七月 醫師開業の者は療病院に於て試験を行う事を達す

教師の流行病豫防法を頒布す

九月 新に管學事をおく 管學事半井澄兼務す

十月 教師及當直醫往診料を改正す

十一月 府に醫務掛（明石博高、鈴木守行）又醫務取締長同副長

を設け自今療病院は管内の醫事を管掌せぬこととなる

文部省の達により自今患者表を調製す

明治八年（一八七五）

二月 神戸文哉療病院管學事を命ぜらる

四月 療病院砂持を行ふ

五月 丹波國船井郡園部町に園部療病院を設置す 數月にして廢す

六月 萩原三圭療病院解剖學科教授專務申附けらる

七月 愛宕郡第二組南禪寺村南禪寺方丈に假癪狂院をおく 當直醫眞島利民を院長、神戸文哉・三上天民を醫員、東山

天華を癪狂院掛に任命す

八月 癪狂院規則・同治療條則を公示す

九月 教師ヨンケル雇期満限となる 更に半力年間繼續に決す

萩原三圭療病院管學事を申附けらる

明治九年（一八七六）

二月 職員月俸支給規則を定む

三月 教師ヨンケル・フォン・ランゲックを解備す

二十六日蘭人セエ・ゲ・ファン・マンスヘルトを教師として招聘す

四月 癪狂院治療條則第九條を更訂す

五月 リュードルフ・レーマンを教師として假中學校内に醫學

豫科校を設け本院の所管とす 管學事萩原三圭同校兼務

年 表 栗田口療病院時代

を命ぜらる

療病院に院長を置き半井澄を初代院長とす

神戸文哉編輯掛を命ぜらる

六月 醫學豫科校教則を管内に布達す

府は療病院に諮問し徽毒規則を發布す

當直醫木下潤を檢微首席醫員とす

七月 治療條則第三章を改正す

八月 生徒條則を一部改正す

九月 下京第二十組建仁寺内福聚院に假驅徽院を設置し、又伏

木檢微所を開く

療病院出張驅徽院定則・醫員心得を制定す

十月 「西醫雜報」を發刊す

神戸文哉譯「精神病約説」を癪狂院藏版として刊行す

本邦に於る最初の精神病學書とす

明治十年（一八七七）

一月 癪狂院患者教則及工場假規則を制定す

二月 明治天皇西下に際し有栖川宮熾仁親王を御名代として療

病院及癪狂院に差遣せられ夫々二千五百圓及二十五圓を

下賜、教師マンスヘルトに絹二匹を下賜せらる

四月 西南戦争に際し大阪臨時陸軍病院へ武部隆太郎・江阪秀

三郎・猪野惣太郎・鷹取常任・山越秀一郎等十名を治療補助として派遣す

六月 職員旅費規則を改正す

七月 京都御所内寮屋二棟下賜せらる

八月 教師マンスヘルト大阪府病院に轉ず

新に獨逸國よりポット・シヨイベを三カ年の契約で招聘す

九月 療病館を借用し假驅鐵院分室とす

十月 「西醫雜報」を廢刊す

明治十一年（一八七八）

二月 愛宕郡第一區淨土寺村に療病院を開設して本院の支院と

す 醫員後藤直三郎を主任として専ら癩病患者を治療せ

しむ

三月 院長半井澄彌狂院長を兼務す

治療條則及び生徒條則中第十二條を改正す

四月 院長の往診料及晝中の診察時間を定む

五月 治療條則中休暇日を改正す

七月 脚氣病患者あるときは療病院に報告すべき旨を各區長に達す

十一月 神戸文哉著「養生訓蒙」を刊行す

明治十二年（一八七九）

三月 教師シヨイベの治験及其他新奇の論說等を纂輯して「療病院雜誌」と名づけ毎月一號を刊行す

四月 療病院を廢す

京都府中學校内の醫學豫科校を廢し、新に本院内に醫學豫科校及び醫學學校を設置することとす

五月 萩原三圭を醫學學校々長に任ず 本校に校長を置くことに始まる

八月 醫學學校通則を定め生徒の入學を許す

九月 上京區第十二組梶井町療病院新築場に校舍建築竣工し醫學學校を移轉す

醫學豫科校假生徒寮として上京區第十二組寺町石藥師下ル北邊町本禪寺及び塔中の圓龍院・心誠院・玄妙院・詮量院を借入ることとす

十月 本院編纂の「獨逸略文典」を刊行す

明治十三年（一八八〇）

七月 十八日 上京區元第十二組御車道槐井町に本校及び療病院の新築竣工し本日移轉式を舉行す 時に天皇陛下當地御駐蹕中なるを以て二品伏見宮貞愛親王殿下此日午前八時臺臨せられ校長助役及び優等生三十一名に金圓を賞賜せらる 還輿後午前十時移轉式を舉行す 府知事臨場し青蓮院以來の生徒十九名に卒業證書を授與す 式後市民の縦覧を許す

八月 治療條則を改正す

九月 驅黴院患者増加せるため療病院を驅黴院分室とす

十一月 教師シヨイベ雇期満ち更に三年間繼續することとなる

十二月 里見時三藥局長申附けらる

明治十四年（一八八一）

一月 當直醫木下淵初代驅黴院長に任せらる

癩狂院治療條則を改正す

五月 府下の醫師を本院講堂に集め教師シヨイベ脚氣病論の要

年 表 醫學校時代

領を講説す

醫學士新宮涼亭一等教諭に任せらる

六月 「療病院雜誌」を廢刊す

種痘館を閉鎖す

七月 從來醫學校及び醫學豫科校は療病院の管理の下にあつたが自今分離獨立することとなる

九月 「教授法」を制定し本月一日より施行す 就學年限四年豫科一年十學期、邦語を以て講述すること等を規定す

醫學校長萩原三圭退職し療病院長半井澄醫學校長兼務を命ぜらる

十月 丙第六五號を以て本院職制を改正し明十五年一月より施行せらる

十二月 教師シヨイベを本院の事宜により解雇す

治療條則の一部を改正す

相田義和本校監事を命ぜらる

明治十五年（一八八二）

五月 文部省達第四號を以て醫學校通則を告示す

醫學士猪子止戈之助一等教諭（外科學）に任せらる

七

醫學士齋藤仙也一等教諭（內科學）に任ぜらる

七月 本校職員俸給規定を定む

九月 上田勝行三等教諭（理化學）に任ぜらる

十月 彌狂院を廢止す 棚橋元章その設備を譲り受け禪林寺境

内に彌狂院を設置す 李家隆彦院長となる

十一月 本校を甲種醫學校と認定せらる

聽講生規定を定む

驅穢院新築竣工し開院式を行う

十二月 小石第二郎二等教諭に任ぜらる

二等助教諭栗生光謙三等教諭に任ぜらる

明治十六年（一八八三）

一月 教諭猪子止戈之助副校長に任ぜらる

二月 本校生徒の結社に關する取締規定を公布す

三月 甲第十五號を以て本校規則を改正し修業年限を四年六月

とし課程細科目を定め嚴密なる試業則を規定し校則・寄

宿舍則を制定す

七月 教室一棟を新築す

副校長猪子止戈之助療病院副院長兼務を命ぜらる

二等教諭田村克巳一等教諭（解剖學）に任ぜらる

上田勝行、吉賀耕作二等教諭に任ぜらる

十月 自今本校を卒業したるものは内務省醫術開業試験を要せ

ず開業免狀を下附せらるることとなる

一等教諭新宮涼亭退職す

明治十七年（一八八四）

二月 二等教諭小石第二郎退職す

三月 第一回卒業生十二名に卒業證書を授與す

四月 醫學士淺山郁次郎一等教諭（眼科學）に任ぜらる

五月 病屍體解剖の義に付附加規定を内務卿より告示せらる

六月 平家建西洋館一棟を新築し事務所とす

九月 武部隆太郎二等教諭（産婦人科學）に任ぜらる

教諭齋藤仙也、同淺山郁次郎療病院兼務を命ぜらる

藥局長里見時三、當直醫江阪秀三郎二等教諭に任ぜらる

十一月 京極齋願寺に於て第一回解剖體大法會を行う

明治十八年（一八八五）

一月 特別の詮議を以て自今本校々長を奏任とす

生徒行爲に關する規定を定む

三月 第二回卒業生七名に卒業證書を授與す

四月 本校監事相田義和に療病院監事兼務を命ぜらる

二等教諭上田勝行藥局長兼務を命ぜらる

二等教諭江阪秀三郎退職す 六月 驅黴院長となる

「京都醫事雜誌」を發刊す

六月 自今生徒入退學及び生徒年齢、進級卒業落第人名、退學

者人名理由につき府知事に報告すべく規定せらる

七月 内務省より監獄刑死者の遺骸解剖許可規定告示せらる

八月 本校々則・教則・試業則を改正、修業年限を四力年四學

期各前後半期とす

生徒寄宿舎を廢止しキリニッキ病舎に充つ

十一月 「京都府立療病院第一次年報」を刊行す

十二月 丙第七十五號を以て京都府立療病院當直醫介補規則を

定む

當直醫兼二等教諭武部隆太郎退職し療病院出仕醫局監督

專任申付けらる

明治十九年（一八八六）

年 表 醫學校時代

一月 京都醫學會を創設す

二月 第三回卒業生九名に卒業證書を授與す

丙第六七號を以て療病院々制を定めらる

六月 校長半井澄退職す

第四回卒業生十四名に卒業證書を授與す

七月 校長以下職員旅費規定を定む

十月 第五回卒業生六名に卒業證書を授與す

星野元彦三等教諭（病理解剖學・診斷學）に任ぜらる

明治二十年（一八八七）

一月 副院長副校長兼教諭猪子止戈之助療病院長兼醫學校長に

任ぜらる

本校職制を定めらる 教諭の等級を廢し一・二・三等教

諭の呼稱を單に教諭と改む

二月 第六回卒業生十二名に卒業證書を授與す

三月 武部隆太郎退職す

教諭淺山郁次郎副院長兼務を命ぜらる

四月 校長事務管理規定を定めらる

五月 勅令第四十八號を以て府縣立醫學校の費用は明二十一年

年 表 醫學學校時代

度以降地方税を以て支辨するを得ざることとなる

六月 醫學士足立健三郎教諭（産婦人科學）に任せられ産婦人科部長を命ぜらる

九月 第七回卒業生九名に卒業證書を授與す

十一月 京都同窓醫會成立す

明治二十一年（一八八八）

一月 「京都醫學會雜誌」を發刊す

三月 給費患者規程を制定す

四月 第八回卒業生十二名に卒業證書を授與す

喜多川義比教諭（化學）に任せらる

五月 平家建西洋館一棟を新築、解剖室・實習室とす 學校は

在來療病院敷地の北方にあつたのを南方に移す

六月 調劑演習概則を定む

九月 第九回卒業生二十八名に卒業證書を授與す

十月 官立及び府縣立醫學校編入生規程を變更す

十一月 第十回卒業生六名に卒業證書を授與す

教諭醫學士齋藤仙也退職す

醫學士佐藤康教諭（内科學）に任せられ内科学部長を命ぜ

らる

十二月 教諭上田勝行退職し藥局長を免ぜらる

明治二十二年（一八八九）

一月 本校生徒の制服を定む

四月 告示第三十五號を以て附屬産婆教習所を開設す

五月 學校經營と地方税の關係を改正す

七月 十日 醫學校移轉式を舉行し、第十一回卒業生二十九名

に卒業證書を授與す 十一日より三日間市民の校内縦覽

を許す

十月 生徒心得を改正す

明治二十三年（一八九〇）

二月 法律第十號により藥局を調劑局、藥局長を調劑局長と更

正す

四月 平家建西洋館一棟を新築し内科及び婦人科教室に充つ

五月 青年醫會發會式を行う

六月 第十二回卒業生三十八名に卒業證書を授與す

九月 京都醫會發會式を行う

十二月 教諭田村克巳死亡す

明治二十四年（一八九一）

二月 醫學士加門桂太郎教諭（解剖學）に任せらる
教諭内科部長佐藤廉退職す

四月 陸軍省令を以て本校卒業生は陸軍一年志願兵となり服役
後現役衛生醫官候補生となり得る旨達せらる

醫學士笠原光興教諭（内科學）に任せられ内科部長を命
ぜらる

六月 平家建西洋館一棟を新築し眼科教室とす

九月 第十四回卒業生三十四名に卒業證書を授與す

教諭栗生光謙退職す

醫學士宮入慶之助教諭（生理學及び衛生學）に任せられ
之に代る

十一月 濃尾地方の震災に際し日本赤十字社の囑託により猪子校
長、醫員生徒を率いて大垣に出張す

明治二十五年（一八九二）

二月 校長兼教諭猪子止戈之助在職の儘自費を以て歐洲各國に

出張視察す

六月 學生等振元會を創立し年四回雜誌を發行す

九月 平屋建西洋館一棟を建築し生理學教室とす

第十五回卒業生四十四名に卒業證書を授與す

明治二十六年（一八九三）

一月 校則を改正す

外科大手術室新築落成す

五月 府知事は生徒が教諭の免職辭職を要求する場合は校則に
より罰すと布告す

十一月 日本赤十字社京都支部看病婦の養成を依託さる 看病婦
養成所長には副院長笠原教諭之に當る

十二月 本校幹事兼療病院幹事相田義和退職す

明治二十七年（一八九四）

二月 府知事より學生生徒の停學放校につき告示あり

教諭笠原光興自費獨逸國へ留學のため退職す

院長猪子止戈之助歸朝す

三月 醫學士平井誠太郎教諭（内科學）に任せられ内科部長を

- 命ぜらる
- 五月 伊東正信教諭（物理學）に任ぜられ幹事を兼務す
教諭官入慶之助退職す
富永兼栄教諭（生理學及び衛生學）に任ぜらる
昨年來増築中の各診察室（眼科・内科・婦人科部）落成し、六月夫々移轉す
- 七月 京都府醫學校運動會規則制定さる 猪子校長會長となる
本校々則一部改正す
- 九月 外科診察室新築落成し移轉す
第十七回卒業生三十九名に卒業證書を授與す
舊醫學校々舎跡に一等病室新築著工す
- 十月 赤十字社看病婦養成所第一回卒業式を舉行す
- 十一月 教諭足立健三郎退職す
日清戦役に際し日本赤十字社の囑託により猪子校長、醫員看護婦を率い廣島陸軍臨時病院に出張す
- 十二月 醫學士島村俊一教諭（神經精神病學・裁判醫學）に任ぜらる

- 一月 醫學士高山尙平教諭（産科婦人科學）に任ぜられ産科婦人科部長を命ぜらる
- 二月 訓示第六號により療病院々制を改正し神經精神科部長を置くこととなり教諭島村俊一之に當る
- 五月 昨年九月來舊醫學校跡に新築中の上等病室落成し南一及二等病室と稱す
- 七月 教諭星野元彦退職す
- 九月 第十八回卒業生四十四名に卒業證書を授與す
訓示第九六號により療病院々制を一部改正し耳科部長・皮膚科部長を置く
- 十月 教諭調劑部長喜多川義比退職す
醫學士古屋恒次郎教諭（化學）に任ぜられ調劑部長兼任を命ぜらる
- 十一月 診察料等を改正す
- 十二月 教諭兼療病院幹事伊藤正信退職す
この年、療病院々制を廢し、訓示第百五號を以て新に府立療病院職務章程制定せらる

明治二十八年（一八九五）

明治二十九年（一八九六）

一月 訓令第二五號を以て附屬産婆教習所規則改正せらる 四

月同第三十號を以て一部改正せらる

二月 恩田壽夫療病院幹事を命ぜらる

四月 豫て獨逸國留學中の笠原光興歸朝に付再び教諭(内科學)に任せられ内科第一部長を命ぜらる 教諭平井穰太郎を内科第二部長とす

(五月訓令第四二號を以て療病院職務章程を一部改正し内科部長を第一、第二の二とす)

八月 療病院幹事恩田壽夫退職す

曩に新築せられたる三等病室(新病室)大風により倒潰す

九月 大野政忠療病院幹事を命ぜらる

十月 第十九回卒業生四十七名に卒業證書を授與す

十二月 校友会を組織し職員學生卒業生を會員とし校長を會長とし、運動部及び學術部をおき教諭を部長とす

明治三十年(一八九七)

一月 「校友會雜誌」を發刊す

驅徽院長江馬章太郎教諭(皮膚病學、徽毒學及び耳科學)

年 表 醫學校時代

に任せられ皮膚科及び耳科部長心得を命ぜらる

五月 校友会第一回總會を開く

九月 告示第二八五號を以て醫學校規則を改正す 自今授業料を管内管外に分つて徴收することとなる

教諭富永兼策退職す

第二十回卒業生六十七名に卒業證書を授與す

十二月 教諭兼調劑部長古屋恒次郎退職す

平屋建一棟新築竣工し三十一年一月より精神病者を收容す 本邦醫學校に精神病舎を置く嚆矢なり

明治三十一年(一八九八)

一月 藥學士平山松次教諭(化學)に任せられ調劑部長兼務を命ぜらる

四月 江馬章太郎皮膚科及び耳科部長を命ぜらる

五月 陸軍々醫委託生徒の養成を委託せらる 角田隆助教諭に任せられ病理學を擔當す 病理學教室茲に獨立す

六月 本校東南空地に體育場及び標本室を新築す

第二十二回卒業生五十八名に卒業證書を授與す

十月 教諭淺山郁次郎文部省留學生として獨逸國留學のため休職、副院長兼任を免ぜらる

十一月 織禮次郎教諭（眼科學）に任せられ眼科部長心得を命ぜらる

笠原光興に副院長兼務を命ず

明治三十二年（一八九九）

四月 教諭織禮次郎眼科部長を命ぜらる

療病院助手會を組織す

五月 前年來本校備付の圖書を基本とし職員卒業生市中醫師等の寄贈又は寄附金を募集して銳意設立に努めて來た醫學圖書館開館す

訓令第七號を以て附屬產婆教習所規則一部改正せらる

六月 第二十二回卒業生五十九名に卒業證書を授與す

教諭平井誠太郎文部省留學生として小兒科學研究のため獨逸國へ留學につき退職す

七月 校長兼教諭猪子止之助京都帝國大學醫科大學教授に轉任につき退職す

教諭加門桂太郎校長事務取扱を命ぜらる

助教諭松山爲雄教諭（外科學）に任せられ外科部長を命ぜらる

教諭淺山郁次郎京都帝國大學醫科大學教授に轉任につき退職す

八月 教諭笠原光興京都帝國大學醫科大學教授に轉任につき退職す

内科第二部を廢し第一部に合併して單に内科部と稱す

九月 教諭加門桂太郎校長に任せらる

教諭島村俊一副院長を命ぜらる

助教諭淺木直之助教諭（内科學）に任せられ内科部長を命ぜらる

十二月 京都帝國大學醫科大學附屬醫院開院す

明治三十三年（一九〇〇）

五月 町田伸教諭（化學）に任せらる

校長加門桂太郎京都帝國大學醫科大學助教諭に轉任のため退職す

教諭島村俊一校長に任せらる

六月 教諭兼調劑部長平山松次退職す

教諭町田伸調劑部長を命ぜらる

第二十三回卒業生七十六名に卒業證書を授與す

七月 訓令第八十三・八十四號を以て京都府立學校職制・同學

校長職務章程を發す

九月 醫學士工藤外三郎教諭（內科學）に任ぜられ內科部長を

命ぜらる

教諭高山尙平療病院長兼務を命ぜらる

十一月 海軍省告示を以て本校卒業生は海軍少軍醫候補生に採用

する旨指定せらる

十二月 府會に於て本校存廢問題論議の結果存續に決す

明治三十四年（一九〇一）

一月 赤座壽惠吉教諭（解剖學）に任ぜらる

三月 教諭淺木直之助休職を命ぜらる

四月 告示第二百二號を以て醫學校規則を改正す（授業料値上）

醫員に一等二等三等醫員・無給助手とあるを廢し新に有

給醫員・無給醫員とす

助教諭角田隆教諭（病理學）に任ぜらる

助教諭朝井元章教諭（神經科學）に任ぜらる

年 表 醫學校時代

診察料及び徴收規則を定む

五月 醫學士水井德壽教諭（生理學）に任ぜらる

六月 第二十四回卒業生七十二名に卒業證書を授與す

十月 療病院北方の空地に北一等病舎・北二等病舎二棟新築落

成す

この年、久しく三等病舎に轉用中の生理學衛生學教室を

舊に復す 電氣治療室完成す

明治三十五年（一九〇二）

三月 本校々則を改正す 特待生・溫習生の制度を設け又本校

卒業生は自今京都醫學得業士の稱號を認許さる

四月 醫學士望月惇一教諭（內科學）に任ぜられ內科第一部長

を命ぜらる

內科部長教諭工藤外三郎は同第二部長を命ぜらる

五月 教諭融禮次郎退職す

醫學士伊藤元春教諭（眼科學）に任ぜられ眼科部長を命

ぜらる

助教諭松山爲雄退職す

六月 第二十五回卒業生四十八名に卒業證書を授與す

七月 醫學士池田廉一郎教諭（外科學）に任せられ外科部長を命ぜらる

教諭朝井元章退職す

制帽を改正す 帽は菱形下縁に二條の青線を有す

明治三十六年（一九〇三）

一月 本校南西の空地に一棟の西洋館を新築し階上を病理學、階下を衛生細菌學教室とす

又内科・産科婦人科・精神科研究室を増築す

三月 京都醫學會解散す

四月 附屬産婆看護婦教習所規則を改正す

常岡良三助教諭に任せられ衛生學及び細菌學を擔當す

衛生細菌學教室茲に獨立す

五月 教諭療病院長高山尚平京都帝國大學福岡醫科大學教授に

轉任のため退職す

醫學士秋元隆次郎教諭（産科婦人科學）に任せられ産科

婦人科部長を命ぜらる

校長島村俊一院長兼務を命ぜらる

六月 第二十六回卒業生四十九名に卒業證書を授與す

六月 二十日 專門學校令により本校は京都府立醫學專門學校と改稱療病院は同附屬療病院となる 學則を改正す

望月、秋元、伊藤、池田、町田、赤座、江馬、角田何れ

も醫學專門學校教諭に任せらる

學用患者規定を改正す

九月 教諭水井德壽休職を命ぜらる

十月 本派本願寺に於て第四回解剖體大法會を執行す 今回を

以て合祀解剖體數は六百體となる

療病院幹事大野政忠退職す

「京都府立醫學專門學校一覽」を刊行す

十一月 柿沼茲太郎療病院幹事を命ぜらる

明治三十七年（一九〇四）

四月 訓令第三十六號を以て本校職制・療病院職務規定・職員

海外留學規定及び看病人規定を制定す

柿沼茲太郎本校幹事兼療病院庶務部長を命ぜらる

休職教諭水井德壽復職を命ぜらる

六月 第二十七回卒業生四十八名に卒業證書を授與す

傳染病室として一・二等室を新築す

七月 教諭池田廉一郎外科學研究のため二カ年間獨逸國へ留學を命ぜらる 留學規程による最初の留學とす
谷靜也を講師とし外科部長心得を命ず
助教諭田村克之教諭(解剖學)に任せらる

明治三十八年(一九〇五)

三月 本校學則を改正す 授業料を値上し又實習費を徴收することとなる

級長規定及び制服規程を改正、又外國人入學規程及び研究生規程を制定す

四月 本校及び附屬療病院の改築に着手す

六月 第二十八回卒業生五十七名に卒業證書を授與す

七月 二階建西洋館を新築し學生控所食堂及び圖書館とす

十月 校内運動場の地に解剖學教室新築のため、鴨川堤防上に新に運動場を設置す

明治三十九年(一九〇六)

三月 解剖學教室・病理學教室を新築す

看病人採用規程を制定す

年 表 醫學專門學校時代

四月 助教諭常岡良三教諭(衛生學細菌學)に任せらる
元生理學教室を改造し病理解剖室・材料室等とし解剖學實習室を新築す

療病院内に發電所を新築し又患者用浴室を新築す

六月 第二十九回卒業生六十二名に卒業證書を授與す

七月 教諭工藤外三郎内科第二部長を免ぜられ助教諭伏原寅男
同部長心得を命ぜらる

八月 教諭工藤外三郎内科學研究のため滿二カ年間獨逸國へ留學を命ぜらる

内科・解剖學の教場を階段式に改造す

講師外科部長心得谷靜也退職す

九月 講師外科部長心得谷靜也退職す

十月 生理學・醫化學教室を新築す

明治四十年(一九〇七)

一月 隙で獨逸國へ留學中の教諭池田廉一郎歸朝す

助教諭中村登外科部長心得を免ぜらる

本校學生定員を五百五十名に増加す

二月 衛生學細菌學教室新築落成す

洗濯場を新築す

三月 教室一棟を新築し第五教室と名づく

洛東大日山京都市有地二百六十坪を借入れ「學用患者の墓」を建設す

本校學則及び細則を改正す

産婦人科教室産室一棟新築落成す

六月 第三十回卒業生七十六名に卒業證書を授與す

九月 學用患者病舎新築落成す 階上を看護婦寄宿舍とす

明治四十一年（一九〇八）

二月 教諭田村克之退職す

四月 前島長裕教諭（解剖學）に任せらる

醫學士本庄謙三郎教諭（小兒科學）に任せられ小兒科部長を命ぜらる

小兒科技に内科より分離獨立し、五月診察室を開設す

を命ぜらる

五月 助教諭伏原寅男教諭（内科學）に任せられ内科第二部長

を命ぜらる

校友會々則を改正し評議員をおく

六月 臨床講義室・傳染病觀察室新築落成す

外科大手術場改造竣工す

第三十回卒業生九十九名に卒業證書を授與す

七月 職員海外留學規定を改正し自費留學生に對しても學資を補助するを得ることとなる

教諭角田隆病理學研究のため滿二カ年間獨逸國へ留學を命ぜらる

三等病室新築落成す

八月 乙二等病室を改築して普通二等病室となし、又看護婦寄宿舍を新築す

十月 本校講堂及び事務室新築竣工す

助教諭中村登耳鼻科部長心得を命ぜらる

新に診察室を開設せられ耳鼻咽喉科技に皮膚科より分離獨立することとなる

十一月 新築の講堂に於て開校三十年記念式典を舉行す 明石博

高之に列し祝辭を讀む

十二月 豫て獨逸國に留學中の教諭工藤外三郎歸朝す

三月 教諭伏原寅男退職す

四月 本校學則を改正し四十二年以後の卒業生は京都府立醫學

明治四十二年（一九〇九）

三月 教諭伏原寅男退職す

四月 本校學則を改正し四十二年以後の卒業生は京都府立醫學

三月 教諭伏原寅男退職す

四月 本校學則を改正し四十二年以後の卒業生は京都府立醫學

専門學校醫學士と稱することを得 又正科・副科の別を廢す

教諭永井德壽休職を命ぜらる

五月 助教諭中村登教諭（耳鼻咽喉科學）に任ぜられ耳鼻咽喉科部長を命ぜらる

藤谷功彦教諭（藥物學・醫化學）に任ぜらる

附屬療病院特等病室及び特別一等病室新築落成す

七月 第三十二回卒業生九十八名に卒業證書を授與す

八月 尾見薫學位を受領す 本校卒業生學位受領の嚆矢なり

九月 附屬療病院内に看護婦附所を新築自後本院自營とす

教諭兼調劑部長町田伸退職す

十月 廣木多三教諭（獨逸語）に任ぜらる

立入保太郎教諭（調劑實習・獨逸語）に任ぜられ調劑部長兼務を命ぜらる

附屬療病院玄關新築落成す

十二月 醫化學實習室増築落成す

明治四十三年（一九一〇）

三月 校長島村俊一退職す 五月講師・院務顧問・神經精神科

年 表 醫學専門學校時代

部長を囑託せらる

教諭望月惇一校長兼教諭に任ぜらる

四月 本校學則の一部を改正し、明治四十二年以前の卒業生に對しても論文を提出して京都府立醫學専門學校醫學士の稱號を請求するを得ることとなる

教諭伊藤元春眼科學研究のため滿二カ年間獨逸國へ留學を命ぜらる

講師井上喜久治眼科部長代理を命ぜらる

六月 第三十三回卒業生百八名に卒業證書を授與す

九月 醫學士佐武安太郎教諭（生理學）に任ぜらる

十月 豫て獨逸國留學中の教諭角田隆歸朝す

十一月 皇太子殿下本校へ行啓せらる

教諭佐武安太郎生理學研究のため滿二カ年間獨逸國へ留學を命ぜらる

明治四十四年（一九一一）

一月 休職中の教諭永井德壽退職す

五月 教諭池田廉一郎新潟醫專教授兼附屬醫院長に轉任のため退職す

副島豫四郎教諭（外科學）に任ぜられ外科部長を命ぜらる

助教諭佐々木恒一教諭（神經精神科學）に任ぜられ、七月同科副部長を命ぜらる

六月 第三十四回卒業生百九名に卒業證書を、清國留學生一名に修業證書を授與す

十月 講師眼科部長代理井上喜久治死亡す
十一月 京都帝國大學教授淺山郁次郎に講師眼科部長を囑託す

明治四十五・大正元年（一九一二）

四月 教諭佐々木恒一退職す

五月 助教諭野田浦弼教諭（神經精神科學）に任ぜらる

教諭木庄謙三郎小兒科學研究のため滿二カ年間獨逸國へ留學を命ぜらる

七月 第三十五回卒業生百五名に卒業證書を、清國留學生二名に修業證書を授與す

坂井千春に講師を囑託小兒科部長を命ず
十月 豫て獨逸國留學中の教諭伊藤元春歸朝す

教諭秋元隆次郎休職を命ぜられ私費獨逸國に留學す

迎請に講師産婦人科部長を委囑 十二月解囑す
教諭常岡良三細菌學研究のため滿二カ年間獨逸國に留學を命ぜらる

大正二年（一九一三）

一月 加治安信に講師産婦人科部長を委囑す

二月 助教諭犬塚一郎教諭（獨逸語）に任ぜらる

四月 校長兼教諭望月惇一歐洲各國へ出張を仰付らる
教諭工藤外三郎校長及び院長代理を命ぜらる

助教諭端野令三内科第一部長代理を命ぜらる
學則及び研究生規定一部改正さる

講師梅原信正教諭（病理學）に任ぜらる

七月 第三十六回卒業生百二名に卒業證書を授與す

九月 内務省告示第五十二號を以て附屬産婆教習所は産婆規則第一條により指定せらる

十一月 本校學生に海軍々醫學生採用の指定あり
私費留學中の休職教諭秋元隆次郎歸朝復職す

大正三年（一九一四）

二月 豫て歐洲視察中の校長望月惇一歸朝す

教諭藤谷功彦死亡す

三月 豫て獨逸國留學中の教諭佐武安太郎歸朝す

革島康三郎に講師、藥物學講座擔任を囑託す

六月 第三十七回卒業生百五名に卒業證書を授與す

七月 教諭伊藤元春・江馬章太郎、幹事柿沼茲太郎退職す

教諭秋元隆次郎、前島長裕休職を命ぜらる

中道貫一幹事兼療病院庶務部長を命ぜらる

八月 教諭副島豫四郎京都帝國大學醫科大學助教授に轉任のため退職す

め退職す

河村叶一教諭（外科學）に任ぜられ外科部長を命ぜらる

岡島敬治教諭（解剖學）に任ぜらる

小柳美三教諭（眼科學）に任ぜられ眼科部長を命ぜらる

佐谷有吉教諭（皮膚黴毒學）に任ぜられ皮膚黴毒科部長を命ぜらる

告示第三六四號を以て本校學則一部改正さる

九月 加治安信教諭（産科婦人科學）に任ぜられ産科婦人科部長を命ぜらる

長を命ぜらる

産婆看護婦教習所規則の一部改正せらる

十月 校長兼教諭望月惇一休職を命ぜらる

教諭工藤外三郎校長兼教諭に任ぜられ附屬療病院長兼内科第一部長を命ぜらる

小川瑳五郎教諭（内科學）に任ぜられ内科第二部長を命ぜらる

助教諭端野令三教諭（内科學）に任ぜらる

本校職制の一部を改正し學生監を置くこととなる 教諭

角田隆學生監兼任を命ぜらる

十一月 豫て獨逸國留學中の教諭本庄謙三郎歸朝す

本校庶務細則を一部改正す

本校及び附屬療病院改築落成式を舉行す

學生金子元春「學生團の歌―連日の夢」を作詩す 後校

歌となる

大正四年（一九一五）

一月 豫て獨逸國留學中の教諭常岡良三歸朝す

三月 本校職員海外留學規程の一部を改正す

教諭端野令三退職す

校友會規則の一部を改正す

四月 教諭中村登京都帝國大學に於て大正五年六月迄耳鼻咽喉科學の研究を命ぜらる

助教諭吉田政次郎耳鼻咽喉科部長代理を命ぜらる

五月 吉川順治教諭(醫化學)に任ぜらる

教諭大塚一郎退職す

六月 第三十八回卒業生八十一名に卒業證書を、中華民國留學生三名に修業證書を授與す

七月 教諭秋元隆次郎、同前島長裕休職満期となる

九月 校長望月惇一休職満期となる

十一月 教諭佐武安太郎東北帝國大學教授に轉任に付退職す

十二月 越智眞逸教諭(生理學)に任ぜらる

教諭小柳美三東北帝國大學教授に轉任に付退職す

大正五年(一九一六)

一月 増田隆教諭(眼科學)に任ぜらる 二月眼科部長を命ぜらる

二月 學則の一部を改正す

看護婦教習所は大正四年内務省令第九號看護婦規則第二

條により指定せらる

四月 本永七三郎教諭(齒科學)に任ぜらる 六月齒科部長を命ぜられ齒科を新に開設す

七月 第三十九回卒業生八十五名に卒業證書を、中華民國留學生二名に修業證書を授與す

十二月 島村俊一神經精神科部長を免ぜられ教諭野田浦彌同部長を命ぜらる

大正六年(一九一七)

二月 一月發布の勅令第五號公立學校職員制により本校教諭・助教諭は自今教授・助教授と稱することとなる

二月 校友會規則の一部を改正す

三月 本校學則の一部を改正す

教授吉川順治胃腸科學研究のため向う二カ年間京都帝國大學へ留學を命ぜらる

五月 第四十回卒業生七十名に卒業證書を、中華民國留學生一名に修業證書を授與す

六月 教授本庄謙三郎死亡す

七月 校長兼教授工藤外三郎退職す

教授小川瑳五郎校長兼教授に任ぜられ同時に附屬療病院

長を命ぜらる

三浦操二郎教授（小兒科學）に任ぜられ小兒科部長を命ぜらる

九月 尾中守三教授（内科學）に任ぜられ内科第一部長を命ぜらる

十一月 前校長島村俊一の壽像を同博士表頌記念會の發起により校庭に建設し盛大なる除幕式を舉行す

十二月 助教授齋藤二郎京都帝國大學へ二カ年間留學を命ぜらる

助教授野田浦弼精神病學研究のため米國へ留學を命ぜらる
助教授久保昱二郎神經精神科部長代理を命ぜらる
助教授尾中守三長崎醫學專門學校教授に轉任につき退職す

大正七年（一九一八）

二月 附屬産婆看護婦教習所規則の一部を改正す

梅田信義教授（内科學）に任ぜられ内科第一部長を命ぜらる

中川清教授（皮膚科學）に任ぜられ皮膚科部長を命ぜらる

四月 教授河村叶一外科學研究のため文部省留學生として歐米

年 表 醫學專門學校時代

各國へ留學を命ぜらる

助教授藤森舜吉外科部長代理を命ぜらる

六月 第四十一回卒業生九十一名に卒業證書を授與す

十一月 教授岡島敬治退職す

十二月 島田吉三郎教授（解剖學）に任ぜらる

勅令第三九號を以て單科大學設立を認容する新大學合發布さる

大正八年（一九一九）

四月 教授吉川順治胃腸科部長を命ぜられ、新に胃腸科診療を

開始す 本邦官公立病院に於る嚙矢なり

革島廉三郎教授（藥物學）に任ぜらる

助教授穗積茂教授（獨逸語）に任ぜらる

陸格達成全國校友大會を三條青年會館に開く

五月 第四十二回卒業生九十一名に卒業證書を、中華民國留學

生一名に畢業證書を授與す

六月 豫て留學中の休職教授河村叶一歸朝に付復職を命ぜらる

大正九年（一九二〇）

四月 本校學則の一部を改正す

助教授藤森舜吉教授（外科學）に任ぜらる

五月 第四十二回卒業生八十二名に卒業證書を、中華民國留學生一名朝鮮留學生一名に卒業證書を授與す 但し學制改正により卒業式は行われず

七月 教授藤森舜吉退職す

十月 卒業生七名に卒業證書を授與す

十一月 教授穗積茂死亡す

十二月 豫て米國留學中の教授野田浦弼歸朝し復職す

卒業生一名に卒業證書を、中華民國及び朝鮮留學生各一名に畢業證書を授與す

大正十年（一九二一）

一月 陞格認可申請書を府知事を経て文部省に提出す

四月 野村梅吉教授（獨逸語）に任ぜらる

五月 卒業生五十八名に卒業證書を、中華民國留學生一名に畢業證書を授與す

六月 校長小川蹉五郎勅任官を以て待週せらる

七月 中村登歐米各國に出張視察を命ぜらる 十二年二月歸朝

す

職員留學規程を改正す

醫專豫科一・二年生を募集す

九月 鶴田多八（國語）門田治郎吉（生物）永井種次郎（數學）醫專豫科教授に任ぜらる
一年生一〇三名、二年生二五名を收容して取敢ず醫專豫科として本校内に假校舎をおき開校す

十月 醫專卒業生二十四名に卒業證書を授與す

文部省告示第四七一號を以て大學令により京都府立醫科大學設立認可せらる

醫專校長小川蹉五郎京都府立醫科大學長に任ぜられ京都府立醫學專門學校長兼任を命ぜらる

十一月 皇后陛下より御内帑金下賜せらる 之を元として獎學資金を設定す

十二月 一日 創立五十周年記念並に陞格祝賀式典を舉行す 自今創立記念日を十一月一日に一定す

十二月 醫專教授廣木多三、立入保太郎、野村梅吉豫科教授兼醫專教授に任ぜらる

醫專教授鶴田多八、門田治郎吉、永井種次郎豫科教授に

任ぜらる

醫專幹事中道貫一大學幹事に任ぜらる

豫科教授廣木多三豫科主任に補せらる

醫專卒業生二名に卒業證書を授與す

大正十一年（一九二二）

一月 告示第三十一號を以て京都府立醫科大學並に豫科學則を制定す

二月 宮田一（英語）柴久光（物理）豫科教授に任ぜらる

醫專教授梅原信正歐米各國に出張視察を命ぜらる 十二

年二月歸朝す

三月 豫科教授門田次郎吉死亡す

榎本安三郎豫科教授（獨語）に任ぜらる

四月 本年度以降學年始期を四月とす

校友會を學友會と改稱し學友會規則を制定す 「校友會

雜誌」は本月發行第九十三號より「學友會雜誌」と改題

す

五月 醫專卒業生八十名に卒業證書を授與す

本學豫科校舍大將軍鷹司町に新築落成し豫科授業を開始

年 表 醫科大學時代

す

醫專教授加治安信歐米各國へ出張視察を命ぜらる 十二

年三月歸朝す（部長代理瀧山耐）

六月 醫專教授梅田信義退職す

七月 附屬分院新築落成し花園分院と稱し精神病者を收容して

開院す 醫專教授野田浦弼分院長を命ぜらる

八月 醫專教授革島廉三郎退職す

箕浦忠愛豫科教授（生物）に任ぜらる

九月 鈴木正次醫專教授（外科學）に任ぜられ外科第二部長を

命ぜらる

二十四日講堂燒失す

第十九・二十號病舎竣工す

十月 醫專卒業生十三名に卒業證書を授與す

十一月 豫科開校並に花園分院開院の祝賀式典を舉行す

醫專講師福田鶴一レントゲン學研究のため英米獨三國へ

出張視察を命ぜらる

十二月 醫專卒業生四名に卒業證書を授與す

大正十二年（一九二三）

一月 本學々術集議會發會式を舉行す 二月第一回學術集議會を開く

二月 醫專教授増田隆歐米各國へ出張視察を命ぜらる 九月歸朝す(部長代理柏井忠安)

醫專卒業生三名に卒業證書を授與す

醫專助教授松永周三郎醫專教授(内科學)に任せらる

學長小川瑛五郎本學教授(内科學)兼任を命ぜらる

京都帝國大學教授淺山忠愛教授(内科學)に任せられ

四月内科第二部長を命ぜらる

三月 醫專教授三浦操一郎(小兒科)吉川順治(胃腸科)角田隆(病理)河村叶一(外科)島田吉三郎(解剖)加治安信(産婦人科)越智眞逸(生理)増田隆(眼科)常岡良三(衛生微生物)本永七三郎(齒科)中村登(耳鼻科)鈴木正次(外科)梅原信正(病理)野田浦弼(神經精神科)中川清(皮膚泌尿器科)夫々本學教授に任せられ醫專教授を兼任す

醫專助教授齋藤二郎本學助教授(小兒科)に任せらる

醫科大學に學生監を設け教授角田隆之を兼任す

吉峯時之輔豫科教授(鑛泉學・分析學)に任せらる

四月 教授吉川順治歐米各國へ出張視察を命ぜらる 十二月歸朝す(部長代理川井銀之助)

朝す(部長代理川井銀之助)

本科學生第一回入學宣誓式を舉行す 新人學生二十七名

學長開學式宣言を讀む

東北帝國大學助教授藤井猪十郎助教授(藥物學)に任せらる

瀧山耐産婦人科副部長を命ぜらる

第十三・十五號病舎竣工し患者の收容を開始す

五月 教授越智眞逸歐米各國へ出張視察を命ぜらる 十二月歸朝す

朝す

文部省京專第三四號にて本學々位授與規程認可せらる

醫專卒業生九七名に卒業證書を授與す

六月 豫科教授兼醫專教授附屬療病院調劑部長立入保太郎京都帝國大學醫學部藥局長に轉任のため退職す

醫專卒業生一名に卒業證書を授與す

小川學長淺山教授京都府下に出張し巡回診療を行う

「京都府立醫科大學々友會雜誌」は本月發行第九十四號

九月 「京都府立醫科大學雜誌」と改題す

より「京都府立醫科大學雜誌」と改題す

關東大震災に付醫員を派遣救護に當る

十月 本學々則及び豫科學則認可さる

十一月 森益藏豫科教授兼醫專教授（化學）に任ぜられ附屬療病院調劑部長を命ぜらる

醫專卒業生十一名に卒業證書を授與す

十二月 醫專卒業生六名に卒業證書を授與す

東北帝國大學助教授後藤基幸教授（醫化學）に任ぜらる

藥物學及び法醫學教室新築落成す

大正十三年（一九二四）

一月 學長兼教授小川瑳五郎歐米各國へ出張視察を命ぜられ七月歸朝す

教授三浦操一郎學長事務代理を命ぜらる

二月 教授本水七三郎歐米各國へ出張視察を命ぜられ十二月歸朝す（部長代理并尻萬太郎）

三月 醫專卒業生三名に卒業證書を授與す

豫科教授野村梅吉福岡高等學校教授に轉任に付退職す

助教藤井猪十郎教授（藥物學）に任ぜらる

豫科講師高坂正顯豫科教授（獨語）に任ぜらる

醫專助教授木村辰三助教授（外科學）に任ぜらる 六月退職す

學友會會則一部改正す

五月 醫專卒業生八十六名に卒業證書を授與す

豫科教授永井種次郎大阪高等學校教授に轉任に付退職す

六月 醫專卒業生二十三名に卒業證書を授與す

豫科試験規則變更に付豫科生徒同盟休校す

豫科生物學臨海實習を三重縣鳥羽に於て行ふ

八月 豫科教授宮田一學生監兼任を命ぜらる

豫科主事兼教授廣木多三主事を免ぜらる

九月 醫專卒業生五名に卒業證書を授與す

文部省告示第三八七號を以て醫學專門學校は本月三十日限り殘務終了に付廢校となる

昨年六月起工の附屬療病院炊事場及び大食堂竣工す

十月 醫專附屬療病院は本月一日を以て京都府立醫科大學附屬醫院と改稱す

學長兼教授小川瑳五郎醫院長を命ぜらる

臨床各學科の教授は夫々附屬醫院當該部長を命ぜらる

講師松永周三郎（第一内科）同伊東金四郎（第二内科）

助教授齋藤二郎（小兒科）講師川井銀之助（胃腸科）同
宇野鬼一郎（第二外科）同富岡末吉（耳鼻咽喉科）同柏
井忠安（眼科）同久保昱一郎（神經精神科）同瀧山耐
（産婦人科）副部长を命ぜらる
附屬療病院醫員の名稱は廢止され醫科大學助手及び副手
となる
附屬療病院調劑部は附屬醫院藥局と改稱、調劑部長は藥
局長と改稱す
醫專附屬産婆看護婦教習所は京都府立醫科大學附屬産婆
看護婦教習所と改稱す
大學々則變更の件認可さる
豫科講師宇野喜代之介豫科教授（獨語）に任せらる
久保昱二郎（神經精神科）高橋義行（微生物學）松永周
三郎（内科）助教授に任せらる
醫專教授赤座壽恵吉退職す
十一月 教授中川清歐米各國へ出張視察を命ぜられ十四年二月出
發し同十月歸朝す（部長代理田村眞男）

大正十四年（一九二五）

一月 教授本永七三郎歸朝に付附屬醫院齒科部長を命ぜらる
三月 本館新築落成す
井尻萬太郎講師囑託齒科副部长を命ぜらる
四月 教授鈴木正次歐米各國へ出張視察を命ぜられ本月出發し
十月歸朝す
豫科敷地内に建設せし階格記念碑竣工し除幕式を舉行す
神戸高等工業學校教授佐々木宗要豫科教授（修身・英
語）に任せられ同時に豫科主事を命ぜらる
豫科講師東儀正豫科教授（數學）に任せらる
本學々位規定制定後初めて宇野鬼一郎、古玉太郎に學位
を授與す
後藤五郎助教授に任せられ理學的療法科學研究のため東
京帝國大學に留學す
陸軍現役將校學校配屬令により軍事教官をおくことにな
り、陸軍歩兵少佐石井親俊本學服務を命ぜられ豫科の軍
事教官に著任す
五月 豫科教授廣木多三退職す
六月 講師宇野鬼一郎助教授（外科學）に任せらる
七月 陸軍大佐男爵前田勇本學服務を命ぜられ本科軍事教官に

著任す

九月 助教齋藤二郎歐米各國へ出張視察を命ぜられ十五年六月歸朝す 助教留學の最初とす

九月 豫科教授吉峯時之輔豫て病臥中のところ休職を命ぜらる十月死亡す

十月 森島三郎豫科教授（化學）に任ぜらる
齒科副部長井尻萬太郎退職す

十一月 教授加治安信退職す

京都帝國大學助教山田一夫教授（産科婦人科學）に任ぜられ産科婦人科部長を命ぜらる

十二月 田村眞男講師囑託皮梅科副部長を命ぜらる
教授増田隆死亡す（部長代理柏井忠安）

大正十五・昭和元年（一九二六）

三月 助手中尾幸夫助教（醫化學）に任ぜらる 五月退職す

四月 教授藤井猪十郎歐米各國へ出張視察を命ぜらる 昭和三年五月歸朝す

藤原謙造講師囑託眼科部長を命ぜらる
中央圖書館を本館二階に開く 中央圖書館規則を制定し

年 表 醫科大學時代

教授梅原信正を主任とす

五月 助手本田郁也助教（病理學）に任ぜらる

六月 助教宇野鬼一郎退職す

七月 講師眼科部長藤原謙造教授に任ぜらる

教授野田浦躬退職す

助教久保晃二郎教授（神經精神科學）に任ぜられ神經

精神科部長・花園分院長を命ぜらる

助教後藤五郎レントゲン科初代部長を命ぜらる

富岡末吉（耳鼻咽喉科）川井銀之助（胃腸科）助教に

任ぜらる

八月 學長兼教授附屬醫院長内科第一部長小川透五郎退職す

教授淺山忠愛學長兼教授に任ぜられ附屬醫院長内科第一

部長を命ぜらる

勝義孝助教（解剖學）に任ぜらる

九月 京都帝國大學助教飯塚直彦教授（内科學）に任ぜられ

内科第二部長を命ぜらる

十二月 教授島田吉三郎歐米各國へ出張視察を命ぜられ昭和二年

六月歸朝す

昭和二年（一九二七）

- 一月 學專第一四號を以て本學々則の一部を改正す
- 一月 奧丹地方大震災に際し救護班を派遣す
- 三月 第一回卒業式を舉行し二七名に學士試験合格證書を授與す 本年度卒業生計二八名
- 豫科教授宇野喜代之介山形高等學校教授に轉任に付退職す
- 豫科教授宮田一歐米各國へ出張視察を命ぜられ昭和四年一月歸朝す
- 教授角田隆歐米各國及び中華民國へ出張視察を命ぜられ十二月歸朝す
- 教授角田隆、豫科教授宮田一學生監兼任を免ぜられ教授常岡良三、豫科教授榎本安三郎學生監兼任を命ぜらる
- 六月 京都府立醫科大學々術研究会を組織し十二日發會式を舉行す 自今學術集談會は本會の事業となり又「京都府立醫科大學雜誌」を發行す 同誌は本月を以て改卷し第一卷第一號通卷一〇四號となる
- 豫科教授鶴田多八死亡す
- 八月 本學變災豫防委員會を設く

昭和三年（一九二八）

- 九月 教授河村叶一休職を命ぜられ外科第一部長を免ぜらる
- 十月 額原退藏豫科教授（國語）に任ぜらる
- 十一月 長崎醫科大學教授望月成人教授（外科學）に任ぜらる 十二月外科第一部長を命ぜらる
- 一月 講師柏井忠安助教授（眼科）に任ぜらる
- 二月 助教授高橋義行死亡す
- 三月 豫科講師北上四郎、同武田鐵五郎豫科教授に任ぜらる 第二回卒業式を舉行し七三名に學士試験合格證書を授與す 本年度卒業生計七七名
- 四月 教授山田一夫歐米各國へ出張視察を命ぜられ同年十月歸朝す
- 助教授勝義孝教授（解剖學）に任ぜらる
- 助教授後藤五郎教授（理學的療法科學）に任ぜらる
- 講師瀧山耐助教授（産婦人科學）に任ぜらる
- 「京都府立醫科大學新聞」創刊す
- 五月 幹事中道貫一死亡す
- 講師伊藤金四郎助教授（内科學）に任ぜらる

八月 中西喜一郎幹事事務取扱を囑託され庶務部長を命ぜらる
九月 教授三浦操一郎死亡す
十一月 教授吉川順治死亡す

教授鈴木正次退職し第二外科部長を免ぜらる

十二月 助教授齋藤二郎教授（小兒科學）に任せられ小兒科部長を命ぜらる

本館露臺に久邇宮家より下賜の金額を以て御眞影奉安庫を建設し清祿式並に奉遷式を舉行す

幹事事務取扱中西喜一郎大學幹事に任せらる

長崎醫科大學教授横田浩吉教授（外科學）に任せられ第二外科部長を命ぜらる

昭和四年（一九二九）

二月 休職教授河村叶一退職す

本學々則の一部を改正す

講師田村眞男（皮膚泌尿器科學）助手細田孟（内科學）

助教授に任せらる

三月 助教授川井銀之助胃腸科部長代理を命ぜらる

第三回卒業式を舉行し七一名に學士試験合格證書を授與

年 表 醫科大學時代

す 本年度卒業生計七二名

五月 教授勝義孝歐米各國へ出張視察を命ぜられ五年五月歸朝す

校旗を制定す

六月 校庭南側に新築せる新館（地下室 學生溜・體育場 一階 平教室二室 二階 中央圖書館 三階 階段教室二室）落成す

七月 教授兼學生監常岡良三學生監を免ぜられ教授後藤基幸學生監兼務を命ぜらる

本學内に於て財團法人昭和會を組織し寄附行爲を制定し内務省の免許を受く

八月 教授常岡良三歐米各國へ出張視察を命ぜらる

九月 學友會規則を改正し初代理事長に後藤基幸就任す
本學々位規程の一部を改正す

昭和五年（一九三〇）

一月 本學並に同豫科學則の一部を改正す

三月 第四回卒業式を舉行し六八名に學士試験合格證書を授與す 本年度卒業生計七〇名

年 表 醫科大學時代

- 助教松水周三郎退職す
五月 講師來須正男助教(外科學)に任せらる
病舎改築第一期工事起工す
臨床講義室竣工す 階下を内科新患診察室とす
七月 助教藤瀧山耐退職す
十月 講師藤田登助教(外科學)に任せらる

昭和六年(一九三一)

- 二月 助教藤田村眞男退職す
三月 助教久保昱二郎歐米各國へ出張視察を命ぜらる 十二月
歸朝す
第五回卒業式を舉行し六六名に學士試験合格證書を授與す
本年度卒業生計六八名
教授横田浩吉歐米各國へ出張視察を命ぜられ同年十一月
歸朝す
豫科教授瀨原退藏京都帝國大學助教に轉任に付退職す
助教藤田登退職す
四月 成城高等學校教授佐伯梅友豫科教授(國語)に任せらる
六月 講師兒玉邦男(解剖學)同井貫耕平(小兒科學)同今津

- 九右衛門(外科學)助教に任せらる
豫科教授宮田一滿洲へ出張を命ぜらる
森益藏學友會理事長となる
八月 病舎改築第一期工事竣工す(第九・十・十一號病舎)
十一月 創立六十周年及び大學階格十周年祝典を舉行す 通俗醫學講演會を開催す

昭和七年(一九三二)

- 一月 教授後藤五郎歐米各國へ出張視察を命ぜられ同年十一月
歸朝す
三月 第六回卒業式を舉行し六八名に學士試験合格證書を授與す
本年度卒業生計七三名
五月 講師加藤明敏助教(微生物學)に任せらる
六月 學長淺山忠愛歐米各國へ出張視察を命ぜられ八年一月歸朝す
その間教授角田隆學長代理を命ぜらる
講師志多半三郎助教(産婦人科學)に任せらる
七月 病舎改築第二期工事起工す

昭和八年(一九三三)

三月 第七回卒業式を舉行し六四名に學士試験合格證書を授與す
本年度卒業生計七〇名

四月 教授中村登歐米各國へ出張視察を命ぜられ同年九月歸朝す

講師牛窪武男助教授(齒科)に任せらる

八月 病舎改築第二期工事竣工す(第九・十・十一號舎殘部、第十二・十三・十五・十六號舎新築)

産婆看護婦教習所規則一部改正せらる

九月 病舎改築第三期工事起工す

昭和九年(一九三四)

一月 學友會臨時評議員會に於て學友會館建設計畫發表さる

三月 講師赤野六郎助教授(衛生學)に任せらる 茲に衛生學教室獨立す

第八回卒業式を舉行し七七名に學士試験合格證書を授與す
本年度卒業生計八七名

教授梅原信正歐米各國へ出張視察を命ぜられ同年十二月歸朝す

本學並に同豫科學則の一部を改正す

年 表 醫科大學時代

四月 助教授赤野六郎歐米各國へ出張視察を命ぜられ十年九月歸朝す

本學豫科指導教授規程を制定す

五月 花園分院規程を制定し分院長に教授久保昱二郎を任す

又内科醫長に講師西村利雄、外科醫長に講師櫻井雅四郎任命せられ本月より内外科の診療を開始す

七月 病舎改築第三期工事竣工す(第十二・十三・十五・十六號殘部、特等病舎の新築)

九月 二十一日近畿地方に未曾有の大風水害あり 罹災者及び兒童を多數收容し各方面へ救護班を派遣す

十月 助教授柏井忠安退職す

十一月 講師松岡龍三郎助教授(神經精神科學)に任せらる

昭和十年(一九三五)

一月 病舎改築第四期工事起工す

教授越智眞逸歐米各國へ出張視察を命ぜられ同年八月歸朝す

越智眞逸學生主事を免ぜられ教授勝義孝之を兼任す

三月 第九回卒業式を舉行し七三名に學士試験合格證書を授與す

- 五月 講師鈴木成美助教(皮膚泌尿器科)に任ぜらる
 教授後藤基幸歐洲及び南洋諸島へ出張視察を命ぜらる
- 六月 二十九日大豪雨襲來し京都市内各河川氾濫し各所に罹災者多數續出し救護班を派遣す
- 十月 比良山に山小屋を建設す
- 十一月 病舎改築第四期工事竣工(第七・八號舎)

昭和十一年(一九三六)

- 一月 講師弓削經一助教に任ぜらる
- 三月 病舎改築第五期工事起工す
 第十回卒業式を舉行し八四名に學士試験合格證書を授與す
 本年度卒業生計八八名
- 助教本田郁也死亡す
- 豫科教授高坂正顯東京文理科大学助教に轉任に付退職す
- 豫科教授森島三郎退職す
- 助教梶尾玉邦男退職す
- 六月 四月起工の豫科圖書館竣工す 階下を校内食堂とす

- 講師小島不二雄助教(解剖學)に任ぜらる
 講師荒木正哉助教(病理學)に任ぜらる
 學長並に附屬醫院院長淺山忠愛退職し教授專任となる
- 七月 教授角田隆學長兼教授に任ぜらる
 教授中村登附屬醫院長に補せらる 自今學長と院長は分離することとなる
- 十月 病舎改築第五期工事竣工(隔離病舎)
- 十二月 教授藤原謙造歐米各國へ出張視察を命ぜられ十二年九月歸朝す
- 助教教授川井銀之助歐米各國へ出張視察を命ぜられ十三年四月歸朝す

昭和十二年(一九三七)

- 一月 豫科講師荒木新太郎(化學)、同下程勇吉(修身・獨逸語)豫科教授に任ぜらる
- 三月 第十一回卒業式を舉行し六六名に學士試験合格證書を授與す 本年度卒業生計六七名
- 四月 教授越智眞逸中華民國へ出張視察を命ぜられ四月歸朝す
 助教教授小島不二雄退職す

助教授赤野六郎教授（衛生學）に任ぜらる

五月 教授望月成人歐米各國へ出張視察を命ぜられ同年十二月
歸朝す

講師田中秋三助教授（病理學）に任ぜらる

昭和十三年（一九三八）

二月 本學々則一部改正す

病舎改築第六期工事起工す

三月 第十二回卒業式を舉行し七四名に學士試験合格證書を授
與す 本年度卒業生計七五名

五月 大日山本學墓地の碑文「學用患者之墓」とあるを「俱會
一處」と改刻し新に有志により「研究動物語靈供養塔」
を建立す

講師館石叔助教授（內科學）に任ぜらる

七月 助教授富岡末吉死亡す

八月 教授山田一夫滿洲國及び中華民國へ出張視察を命ぜらる
教授本永七三郎退職す

十一月 病舎改築第六期工事竣工す（第十七・十八・十九・二十
號舎）

十二月 講師井尻萬太郎齒科部長を命ぜらる

昭和十四年（一九三九）

一月 助教授井貫辨平退職す

三月 第十三回卒業式を舉行し八三名に學士試験合格證書を授
與す 本年度卒業生計八六名

教授兼學生主事勝義孝兼職を免ぜられ教授藤井猪十郎學
生主事兼職を命ぜらる

五月 教授島田吉三郎定年により退職す 新に本學内規により
決められた定年制（六十三年を定年とす）による最初の
退職なり

六月 青少年學徒に賜りたる勅語奉戴式舉行せらる
教授後藤基幸學術研究會議々員を仰付らる

講師中村文雄助教授（耳鼻咽喉科學）に任ぜらる

八月 助教授松岡龍三郎與亞青年勤勞報國隊派遣指導教官を委
嘱せられ中華民國及び蒙疆へ出張を命ぜらる

學長兼教授角田隆定年につき本職並に兼職を免ぜられ教
授常岡良三後任として學長兼教授に任ぜらる

教授中村登附屬醫院長を免ぜられ教授専任となり教授藤

原謙造附屬醫院長に補せらる

豫科教室増築工事に着手す

教授望月成人滿洲國及び中華民國へ出張を命ぜらる

十月 豫科教授東儀正滿洲國及び中華民國へ出張を命ぜらる

昭和十五年（一九四〇）

三月 第十四回卒業式を舉行し六五名に學士試験合格證書を授

與す 本年度卒業生計六六名

四月 文部大臣の認可を得て豫科入學定員八十名を百名に増員

す

七月 助教授今津九右衛門第二回學生報國隊醫療班長として滿

洲國へ出張を命ぜらる

八月 豫科教室増築工事竣工す（教室三・會議室一）

教授飯塚直彦、豫科教授北上四郎滿洲國及び中華民國へ

出張を命ぜらる

助教授伊東金四郎退職す

九月 學歌を制定す 伊良子清白作詩、服部正作曲なり

十月 教育勅語煥發五十周年に當り學長常岡良三、教授淺山忠

愛、同中村登、豫科教授佐々木宗要は多年教育に従事し

功勞顯著なる故を以て文部大臣より表彰せらる

十一月 紀元二千六百年式典並に奉祝會に學長常岡良三外二十名

參列す

昭和十六年（一九四一）

二月 講師角本永一（內科學）、同山田博（解剖學）助教授に

任ぜらる

三月 第十五回卒業式を舉行し六七名に學士試験合格證書を授

與す 本年度卒業生計六八名

講師齒科部長井尻萬太郎助教授（齒科學）に任ぜらる

四月 看護婦寄宿舎移轉改築工事竣工す

學友會々則を改正し學友會は自今卒業生中心となる 新

に京都府立醫科大學奉公會發足し同會則を制定す

五月 豫科に弓道場竣工す

六月 豫科教授箕浦忠愛滿洲國及び中華民國へ出張を命ぜらる

七月 教授越智眞逸滿洲國及び中華民國へ出張を命ぜらる

豫科教授兼豫科主任佐々木宗要退職し豫科教授榎本安三

郎豫科主任を命ぜらる

八月 學生主事兼豫科教授北上四郎學生主事を免ぜられ豫科教

授武田鐵五郎學生主事兼任を命ぜらる
學徒報國隊結成さる

十一月 創立七十周年陸格二十周年記念祝典を舉行す

助教授荒木正哉教授（病理學）に任ぜらる

本科に於ても指導教授制を布く 當分一・二學年に適用
することす

十二月 所謂大東亞戰爭勃發す

第十六回卒業式（繰上）を舉行し七八名に學士試験合格
證書を授與す

建田恭一助教授（解剖學）に任ぜらる

昭和十七年（一九四二）

三月 臼井竹次郎豫科教授（獨逸語）に任ぜらる

森譽四郎豫科教授（數學）に任ぜらる

五月 豫科教授柴久光退職し豫科講師塘仁三豫科教授（物理）
に任ぜらる

豫科教授佐伯梅友東京文理科大学助教授に轉任に付退職
し立命館大學豫科教授淺田善二郎豫科教授（國語）に任
ぜらる

七月 助教授角本水一興亞學生勤勞報國隊醫療隊長を命ぜられ
渡滿す

八月 學長兼教授常岡良三定年につき退職す

教授中村登學長兼教授に任ぜらる

教授藤原謙造附屬醫院長を辭任し教授望月成人附屬醫院
長を命ぜらる

九月 本年度より在學年限短縮せられ本科は四年（但し當時在
學生は三年六月）豫科は二年六月となる

従つて本月第十七回卒業式を舉行し六〇名に學士試験合
格證書を授與す 本年度卒業生計六一名

附屬醫院藥局長兼豫科教授森益藏退職し梅田良三藥局長
を命ぜらる

後藤五郎、森益藏に代り學友會理事長となる

幹事中西喜一郎死亡す

十月 高木敬一助教授（小兒科）に任ぜらる

十一月 創立記念日當夜第八回通俗醫學講演會開催せらる 今回
を以て中止となる

十二月 助教授加藤明敏教授（微生物學）に任ぜらる

昭和十八年（一九四三）

- 一月 小澤俊次助教（藥物學）に任ぜらる
藤井桑次郎幹事に任ぜらる
教授淺山忠愛定年につき退職し附屬醫院第一内科部長を免ぜらる
第二内科部長飯塚直彦第一内科部長となる
助教細田孟第二内科部長代理を命ぜらる
助教細田孟教授（内科學）に任ぜられ第二内科部長となる
- 三月 教授加藤明敏死亡す 教授赤野六郎微生物學教室管理を命ぜらる
長者尙徳助教（内科學）に任ぜらる
助教鈴木成美皮膚泌尿器科副部長を、同志多半三郎産婦人科副部長を命ぜらる
看護婦寄宿舎第二期工事を完了して竣工移轉す
教授梅原信正定年につき退職す
豫科化學教室増改築着工す
- 五月 教授後藤基幸、教授兼學生主事藤井猪十郎病氣引籠中藥物學教室管理及び學生主事事務取扱を命ぜらる
- 六月 助教鈴木成美微生物學教室勤務を命ぜらる
丸本晋助教（内科學）に任ぜられ第二内科副部長を命ぜらる
教授藤井猪十郎學生主事兼職を免ぜられ教授後藤五郎學生主事を兼任す
助教今津九右衛門休職を命ぜられ第二外科副部長を免ぜらる
- 七月 學生主事兼豫科教授武田鐵五郎豫科教授兼學生主事に任ぜられ、又厨清雄學生主事に任ぜらる
- 八月 教授赤野六郎滿洲國へ、又教授荒木正哉滿洲國及び中華民國へ出張を命ぜらる
- 九月 第十八回卒業式を舉行し七四名に學士試験合格證書を授與す
助教高木敏一退職す
- 十一月 小川瑛五郎、島田吉三郎、角田隆、當岡良三、淺山忠愛、梅原信正本學名譽教授に推薦さる
助教鈴木成美教授（微生物學）に任ぜらる
中村恒男助教（小兒科學）に任ぜらる

昭和十九年（一九四四）

らる

一月 財団法人伏見病院の寄附を得、書記水野定藏以下六名を
の接收委員を命ぜらる

京都帝國大學講師緒方洪平に講師（衛生學）を委嘱す
講師河村謙二、同木口直二助教（外科學）に任ぜられ
河村は第二外科副部長を命ぜらる

二月 金田弘助教に任ぜられ理學的診療科副部長を命ぜらる
京專第二七號を以て本學附屬女子専門部設立認可され直
ちに生徒を募集す

三月 京都市立醫科大學科學動員委員會設置せらる

末川悞、山田義雄、佐野多郎、濱孝雄、西田貢に講師を
委嘱夫々伏見分院醫長を命ず

四月 伏見分院外科醫長阿部四郎伏見分院長を命ぜらる

九月 助教授松岡龍三郎退職す

附屬女子専門部開校す 入學者八〇名

學生は既に陸海軍々醫學校にあるを以て第十九回卒業式
は舉行されず、六一名に學士試験合格證書を授與す

教授鈴木成美、豫科教授淺田善二郎、同森譽四郎、同東

女專教授兼藥局長事務取扱梅田良三、藥局長兼女專教授

儀正、同白井竹次郎、同武田鐵五郎、同箕浦忠愛、同塘

を命ぜらる

仁三、藥局長梅田良三、足立興一、講師小森繁、助教授

田中秋三、教授後藤基幸女子専門部講師となる

十月 教授越智眞逸、助教授小澤俊次女專講師を囑託さる

二十四日衛生學・微生物學・生理學・醫化學・藥物學教

十一月 小谷庄四郎助教に任ぜられ神經精神科副部長となる

室燒失す 直ちに復興委員會を組織す

十二月 「京都市立醫科大學新聞」第一八五號を以て終刊す

六月 荒神橋西畔の學士會京都支部會館を買收し學友會館とす

教授赤野六郎死亡す

教授勝義孝、赤野六郎病氣引籠中衛生學教室管理を命ぜ

學生主事厨清雄退職す

昭和二十年（一九四五）

二月 中村四十吉助教（病理學）に任せらる

教授越智眞逸女專教授兼任となり、講師末川悳、佐野多郎、三宅廉、濱孝雄、西田貢女專教授に任せらる

三月 八日花園分院本館焼失す

本院第一・二・三號病舎及び病理學教室疎開のため取毀たれ病理學教室は圖書館閱覽室及び京極國民學校へ分散す 微生物學・醫化學・生理學・藥理學各教室・女專等も夫々疎開す

四月 第二十回卒業生のため假卒業式を行う

學年の呼稱を一回生・二回生等とす
助教授産婦人科副部長志多半三郎伏見分院醫長・同分院長事務取扱を命ぜられ、講師田原敏男産婦人科副部長となる

五月 助教授弓創經一女專講師囑託さる

荒木正哉勝義孝に代り衛生學教室管理を命ぜらる
助教授木口直二伏見分院外科醫長を命ぜらる

六月 教授兼女專教授越智眞逸、中村登病氣缺勤中學長兼女子

專門部長事務代理を命ぜらる

助教授中村文雄女專講師を兼任す

助教授今津九右衛門休職滿期自然退職す

助教授中川清、助教授小谷庄四郎、同金田弘女專講師兼務を命ぜらる

七月 學長兼教授兼女子專門部長中村登死亡す

教授越智眞逸學長事務取扱を命ぜらる

教授望月成人齒科學・耳鼻咽喉科學教室管理を命ぜらる

八月 無條件降伏す

助教授中村文雄耳鼻咽喉科部長心得を命ぜらる

豫科講師エルヴィン・ヤーンを解囑す

九月 先に假卒業式を行つた第二十回卒業式を舉行し七一名に

學士試験合格證書を授與す 本年度卒業生計七二名

鈴木成美女專教務主任を免ぜられ後藤基幸之に代る

助教授兼女專教授越智眞逸學長兼教授兼女子專門部長に任ぜらる

豫科教授兼學生主事武田鐵五郎兼職を免ぜられ豫科教授

森馨四郎學生主事兼任を命ぜらる

十月 女專教授佐野多郎に代り助教授女專講師弓創經一分院眼

科醫長を命ぜらる

十一月 女專教授末川惇退職す 志多半三郎女專教授兼大學助教

授となる

豫科生徒、女專生徒、本科學生は夫々學生生徒大會を開き學生自治會の設立・教授會の公開・一、二教授の辭職を要求す

十二月 習田達夫女專教授に任ぜらる

後藤基幸女專教務主任を免ぜらる

志多半三郎伏見分院長となる

昭和二十一年（一九四六）

一月 女專教授兼生徒主事田中秋三兼職を免ぜらる

助教授金田弘退職す

二月 學長兼教授兼女子専門部長越智眞逸兼任を解かれ教授專

任となる

教授勝義孝學長兼教授兼女子専門部長に任ぜらる

女專教授佐野多郎死亡す

教授兼女專教授後藤基幸退職す 教授藤井猪十郎醫化學

教室管理を命ぜらる

京都府立醫科大學協議會結成さる

三月 學生主事は本月末を以て廢官となる

學生主事水野重一大學幹事となる

附屬產婆看護婦養成所は本月末限り廢止せらる

四月 助教授中村文雄教授に任ぜられ耳鼻咽喉科部長を命ぜらる

望月成人の同教室管理を解く

講師野中彌一助教授に任ぜられ皮膚泌尿器科副部長を命ぜらる

ずらる

新に厚生女學部（助産婦科・看護婦科）設立さる 部長

は病院長兼任とす

公立大學職員は本官となり文部教官・文部技官・文部事

務官に夫々任官補職令せらる

五月 大學教員適格審査委員會設置さる 豫科及び女專教員は

近畿高等學校專門學校教員適格審査委員會の審査を受けることとなる

ることとなる

病院に従業員組合結成さる 當初組合員約八十、その後

第二組合として職員組合結成さる

九月 第二十一回卒業式舉行せられ八五名に學士試験合格證書

を授與す 本年度卒業生八六名

今回の卒業生から一カ年の實地修練（インターン）を経て國家試験に合格し初めて醫師免許證が與えられることとなる

助教授弓削經一女專教授を兼任す

十月 本學職員組合は大學と勞働協約を結ぶ

十二月 講師緒方洪平教授（衛生學）に任ぜらる

講師藤田秋治教授（生化學）に任ぜらる

自今醫化學教室は生化學教室と改稱す

昭和二十二年（一九四七）

一月 漆葉見龍講師を委嘱され幹事となる

助教授長者尙德退職す

三月 教育基本法・學校教育法發布され教育制度は茲に全く一變す

片岡八束女專講師を囑託せらる

四月 第二回醫師國家試験行われ前年九月卒業生初めて受験す

講師野田秀俊教授（解剖學）に任ぜらる

講師飯田文武、横井勝朗、今井晴一、中島富雄夫々耳鼻

科、理療科、眼科、産婦人科副部長を命ぜらる

助教授建田恭一退職す

五月 豫科教授塘仁三死亡す

六月 豫科教授下程勇吉京都大學助教授に轉任に付退職す

助教授井尻萬太郎休職を命ぜられ京都大學助教授美濃口

玄に講師（齒科學）を委嘱す

女專講師片岡八束女專教授に任ぜらる

七月 文部省第十六號を以て醫學專門學校の修業年限は五カ年

と定められたため女專の修業年限は一カ年間延長される

こととなる

八月 女專教授習田達夫豫科教授（倫理・英語）に任ぜらる

九月 第二十二回卒業式を舉行し一〇三名に學士試験合格證書

を授與す

教授兼女專教授越智眞逸定年に付退職す

兵庫縣立醫科大學教授兼醫專教授吉村壽人教授（生理學）

に任ぜらる

十月 教授中川清退職す

女專教授片岡八束本學教授（皮膚泌尿器科學）に任ぜら

れ皮膚泌尿器科部長を命ぜらる

助教授兼女專教授弓削經一教授（眼科學）に任ぜられ女

専教授を兼任す

十一月 女専教授濱孝雄退職し竹澤徳敬伏見分院耳鼻科醫長を命ぜらる

十二月 教授藤原謙造厚生技官國立舞鶴病院長に轉任に付退職す
幹事漆葉見龍幹事長を命ぜらる

昭和二十三年（一九四八）

一月 助教授胃腸科部長川井銀之助教授に任ぜらる

助教授來須正男教授に任ぜられ新に整形外科學を擔當す
生物物理化學教室新設せられ教授勝養孝解剖學教室より
轉す

講師増田正典胃腸科副部長となる

二月 助教授山田博教授（解剖學）に任ぜらる

三月 豫科講師杉原雅豫科教授（物理）に任ぜらる

竹澤徳敬女専教授に任ぜらる

上野弘伏見分院眼科醫長を命ぜらる

小田完五講師伏見分院皮膚泌尿器科醫長を命ぜらる

四月 教授望月成人附屬醫院長を免ぜられ教授飯塚直彦醫院長を命ぜらる

國立舞鶴病院長藤原謙造本學教授を兼任す

五月 望月成人の齒科學教室管理を解く
伏見分院眼科醫長上野弘女専教授に任ぜらる 教授弓削
經一女専教授兼任を免ぜらる

六月 講師伏見分院皮膚泌尿器科醫長小田完五女専教授に任ぜ
られ片岡八束女専教授を免ぜらる

七月 講師美濃口玄解囑せられ講師（微生物學）竹田三郎齒科
に轉じ齒科部長代理を命ぜらる

八月 院長飯塚直彦厚生女學部長兼務、教授齋藤二郎同看護婦
科長、教授山田一夫同助産婦科長兼務を命ぜらる

九月 第二十三回卒業式舉行せられ一〇八名に學士試驗合格證
書を授與す

能勢善嗣（生化學）錫谷徹（法醫學）助教授に任ぜらる
舞鶴病院長兼本學教授藤原謙造兼任を解かる

十月 醫動物學教室新設せられ小林晴治郎講師を委囑さる
十一月 齒科部長代理竹田三郎齒科部長を命ぜらる

副手制度廢止に伴い臨時職員として任用中の副手は臨時
職員任用調査審議の結果否認されたもの三名を除き明
年三月三十一日迄在任期間を延長されることとなる

十二月 越智眞逸、島田吉三郎に名譽教授の稱號を授與す

昭和二十四年（一九四九）

一月 公立大學教員は地方公務員となり京都府公立學校教員となる

二月 新設の整形外科は愈々設備も整い教授來須正男同科部長を命ぜられて開設す

三月 第二十四回卒業式舉行せられ一〇九名に學士試験合格證書を授與す 又女子専門部第一回卒業式を舉行し六五名に卒業證書を授與す

四月 理學的診療科は放射線科と改稱せらる

附屬厚生女學部は本年度以降生徒の募集を中止す

新に甲種看護婦學院開校せらる 入學者一八名

附屬醫院長飯塚直彥學院長に又山田一同教授に任せらる

飯塚直彥附屬醫院長辭任に付教授齋藤二郎附屬醫院長・

甲種看護婦學院長・厚生女學部長を命ぜらる

六月 臨時職員制度の廢止に伴い臨時職員副手は本月一日附を以て全部退職し新に研修員制度設けらる

助教授井尻萬太郎退職期限満期となり自然退職す

八月 豫科教授臼井竹次郎京都大學助教授に轉任に付退職す

十一月 鈴木成美、田中秋三、梅田良三の女專教授兼任を免す

九日附屬女子専門部教授會妨害事件發生し、十五日日本學

教授會に於て學生八名の放學處分を決定す

助教授野中瀨一、女專教授足立興一、同竹澤德敏は地方自治法附則第五條により官吏分限令第十一條第四號を準用して休職を命ぜらる 又技手赤塚豊、看護婦長竹中幸

も同時に休職を命ぜらる

昭和二十五年（一九五〇）

一月 助教授陣容を整備す

横井勝朗（放射線科）竹田三郎（齒科）飯田文武（耳鼻

咽喉科）今井晴一（眼科）増田正典（胃腸科）保田岩夫

（整形外科）名取美代治（外科）菅沼惇（微生物學）舟

木廣（生物物理化學）井上五郎（生理學）米澤猛（病理

學）又女專教授小田完五（皮膚泌尿器科）等助教授に任

ぜらる

放學々生等放學處分取消の訴訟を起す

二月 講師徳田源市産婦人科副部長を命ぜらる

三月 第二十五回卒業式を舉行し五二名に學士試験合格證書を授與す 本年度卒業生計五二名 豫科修了生以外のもの卒業なり

女專第二回卒業式を舉行し四七名に卒業證書を授與す
豫科教授北上四郎、同森譽四郎夫々熊本縣立女子醫科大學、大阪學藝大學教授に轉任のため退職す 又同杉原雅、淺田善二郎は西京大學教授及び助教授に轉任し本學豫科教授兼任を命ぜらる

四月 事務職員は從來文部事務官であつたが今回地方公務員となり京都府事務職員となる

教授齋藤二郎附屬醫院長を退き教授細田孟附屬醫院長・甲種看護婦學院院長兼務を命ぜらる
教授飯塚直彦定年につき退職す

助教授館石叔第一内科部長代理を命ぜらる
助教授名取三代治死亡す

豫科教授宮田一京都府事務職員を兼任し本學教務課兼務を命ぜらる

六月 舊看護婦寄宿舎跡に生理學・衛生學・藥理學三教室豫て建築中のところこの程竣工し西構と稱す

年 表 醫科大學時代

七月 京都地方裁判所より放學處分取消の判決あり 直ちに本學は大阪高等裁判所に控訴す

豫科教授習田達夫九州大學助教授に轉任につき退職す

八月 角田隆、藤原謙造本學名譽教授の稱號を授與せらる

十月 小川瑳五郎、中川清、飯塚直彦名譽教授の稱號を授與せらる

十一月 放學々生等屢講義を妨害す 之に同調せる學生を放學、無期停學及び戒飭に處し教授會は自今非公開となる

放學々生は大阪高等裁判所に放學處分執行停止命令の申請書を提出せるも二十六年一月總理大臣吉田茂の異議書が提出されその申請は却下さる

十二月 幹事藤井彥次郎死亡す

昭和二十六年（一九五二）

三月 第二十六回卒業式を舉行し一〇七名に學士試験合格證書を授與す

女子専門部最後の第三回卒業式を舉行し四九名に卒業證書を授與す

甲種看護婦學院第一回卒業式を舉行し一三名に卒業證書

四五

を授與す

學制改革に伴ひ豫科及び附屬女子専門部は本月末を以て廢止せらる。又厚生女學部も廢止せらる。

附屬醫院は附屬病院、伏見分院は附屬伏見病院と改稱す。大倉氏の寄附金百萬圓を以て伏見病院病室・手術室等を改築す。

四月

女專教授志多(産婦人科)木口(外科)西田(内科)三宅(小兒科)上野(眼科)小田(皮膚科)は本學助教授に任せられ伏見病院部長を命ぜらる。又助教授飯田文武同耳鼻科部長を命ぜらる。

志多半三郎同病院長事務取扱を命ぜらる。

新に乙種看護婦學院が伏見病院に設置され志多半三郎同學院長事務取扱を命ぜらる。

前豫科教授宮田一本學講師教務課勤務を命ぜらる。

五月

教授齋藤二郎定年に付退職す。六月名譽教授の稱號を與えらる。助教授中村恒男小兒科部長代理を命ぜらる。

六月

胃腸科學教室を内科學教室と改め診療科名は従來通り胃腸科とす。

助教授井上五郎退職す。

八月

講師小南又一郎、小林晴治郎、宮田一一級官に任せらる。豫て空席の内科學後任教授は助教授館石叔に決定し第一内科部長を命ぜらる。又助教授角本永一は同副部長となる。

十月

兵昇助教授に任せられ伏見病院耳鼻科部長となる。

十一月

教授花園分院院長久保昱二郎停年につき退職す。助教授中村恒男教授に任せられ小兒科部長を命ぜらる。

十二月

基礎醫學教室竣工す。解剖學・病理學・法醫學・醫動物學各教室及び同位元素研究室に當てらる。

昭和二十七年(一九五二)

一月

同位元素研究室新設せらる。望月・後藤・來須・荒木・吉村各教授、米澤助教授、漆葉幹事長等同研究室運営委員會委員を、又米澤助教授は同管理代行者を、後藤教授は同健康管理者を命ぜらる。

露木昶助教授に任せられ伏見病院小兒科部長となる。

助教授角本永一教授に任せられ國立舞鶴病院院長に轉任を

命ぜらる

二月 小谷庄四郎教授に任せられ神経精神科部長・附屬花園分
院長を命ぜらる。

久保暎二郎に名譽教授の稱號を授與す

地管第三四號を以て新制京都府立醫科大學設立の件認可
さる

三月 第二十七回卒業式を舉行し一二名に學士試験合格證書
を授與す

獎學資金を廢止す

四月 自今附屬甲種看護婦學院を單に看護婦學院、乙種看護婦
學院を准看護婦學院と改稱し後者を本院内に移轉し附屬
病院長細田孟兩學院長を兼務す

新制大學第一回入學式を舉行す 新入學生八〇名

學長勝義孝新制大學々長事務取扱を命ぜらる

勝・藤田・吉村・野田・山田各教授、能勢・舟木各助教

授、宮田講師等新制大學講師を委囑さる

教授藤井猪十郎定年につき退職す

助教小澤俊次藥理學教室管理を命ぜらる

講師森宗登助教(舊制)に任せられ第一内科副部長を

命ぜらる

五月 幹事長漆葉見龍退職す

伊吹貞治新制大學事務局長に新任せらる

八十周年記念會館著工す

六月 藤井猪十郎に名譽教授の稱號を授與す

教授横田浩吉休職を命ぜらる

電子顯微鏡室新設せられ、野田・荒木・田中・吉村・鈴
木各教授、菅沼助教等運營委員會委員を命ぜられ、菅

沼助教同研究室管理代行者となる

八月 學生自治會は從來兎角のことあるも本月再確認さる

九月 講師小林晴治郎新制大學講師を委囑せらる

十月 第五十二回解剖體法會四本願寺に於て施行さる 合祀解

剖體數は八五二に及ぶ

十一月 一日 創立八十周年を迎え盛大なる記念祝典を舉行す